

Noto

LUS

広報のと No. 91
2012.9.1

9



広報のと 第91号

平成24年9月1日発行

■発行・能登町 ■編集・広報情報推進課
〒927-0492
石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字197番地1

☎0768-62-10000(他)
能登町URL: <http://www.town.noto.lg.jp>
Eメール: info@town.noto.lg.jp

キリコを飾る勇壮な人形
今年のコンテストを制した
『加藤清正の虎退治』(第一組)



ぶらり山
ゆらり海

第9回 『のと遍路 後記』



『歩き』という風土のモノサシ

能

登半島一周450^キ、19日間の旅。歩いてみると能登が広大に感じられました。昔はみんな歩いてきたから昔の人も同じ感覚だったと思います。歩けば人と大地の生きものとしての約束が現れます。それは距離。掛値なしの絶対的な尺度となつて、1^キは1^キ、2^キなら2^キ、1^リたりとて縮むことはなく、歩幅で等しく埋めていく他はありません。人が1日に歩けるのは30^キ程度。車でたった30分の距離です。さて、昔の距離の単位は「1里」でした。これは約4^キ、徒歩でちょうど1時間の距離です。歩いて気付いたのはこの1里が文字通り自分の里、つまり日常生活文化圏(集落群)に等しいということでした。2里離れたらとなりの村や町へ来たという感じです。生活実感がこもつた人間の尺度として1里2里を徒歩感覚で捉えると、風土の成り立ちがよく分かるかもしれません。ちなみに4里(16^キ)は1日で往復できる折り返し限界点となりますが、そこから先は泊りを要する「旅」の世界です。のと遍路では丹念に昔の道を選んで歩きました。たいいてい一車線ほどの狭い道で、くねくね曲がりながら集落を縫い裏山を越えて次の集落へと続きます。これが実に歩きやすいのです。道が狭いおかげで塀や庭木が日陰を作り、人が近いので挨拶しながら鎮守の森がある神社で一休み。森の脇はクーラーのようで峠のお地藏様の花飾りにホッとしました。ところで古い旅行記には七尾湾や内浦の沿岸航路が登場します。船なら歩かなくても前進でき、旅人にとってよい気分転換になったでしょう。何百年も何千年も徒歩によって作られ結ばれてきた能登の風土。歩けば、今もそのまま残っていることが分かります。

写真・文 山崎昭宏 Yamazaki Akihiro



【PROFILE】昭和42年埼玉県生まれ。平成21年能登町笹川に移住。半農半X・あるもの探し・プロシューマ・社会起業・コミュニティビジネス・スモールイズビューティフル・GHP・脱原発・農的暮らし・エネルギー自給・なつかしい未来・ローカリゼーション・ピークオイル・・・都会で働きながらこういうキーワードを考えていた。ブログ: ゆらりぶらり <http://blog.livedoor.jp/yurairuburari/>



「広報のと」9月号の印刷費は一部当たり34円です。



Photo/ 松波人形キリコ祭り(7月28日)で、21年ぶりに人形コンテストを制した第一元組のキリコ